



## 大使からの活動報告 2016年8月2日～9月6日

### 協力隊員との懇談会他

在グアテマラ日本大使

川原 英一

平成 28年 9月 7日

### ◆新規協力隊員(11名)の当館来訪

8月2日、(算数)教育隊員名、(環境)教育隊員、栄養隊員計11名が当国各自治体に派遣さ



れる前に、ご挨拶を頂きました。過去1月間、アンティグアで毎日午前8時から午後4時まで現地語学研修を受けたとのこと、隊員の中には大学での研究室、現職教員や企業勤務の方が途上国での教育に関心を持たれて隊員を志望ケース、また、大学を出て日本で教師になる

前にまず途上国教育にお役に立ちたいという志のある方々でした。

当国では小学校教育を終えることの出来ない児童が未だ少なくなく、算数教育や栄養改善分野で日本の協力が着実に進んでおり、さらにきめ細かな支援を継続することが大切であること、多くの出会いがあり、派遣先の方々と連携して良い活動が出来ることを期待している旨当方から申しました。

### ◆グアテマラで活躍中の協力隊員との懇談会

8月5日(金)午後、グアテマラ各地で活躍中の隊員達、JICA 富安所長、当地メディア関係



者を公邸にお招きしました。地方自治体(市)に派遣された隊員達は、地域住民と共に生活をしながら、地域の課題に取り組んでいます。地域住民に寄り添う活動を進める中で、どのような苦勞をされているのか、お話を聞かせてもらう良い機会となりました。

スポーツ普及隊員(野球・水泳・体操・バレー等)、算数教育、環境、地域開発、栄養改善、感染症対策、障害児支援活動に従事する各隊員などの御紹介と代表隊員による活動紹介がありました。

市立の障害児保育施設で働く隊員は、共に働く先住民系女性には教育機会に恵まれない方が多い、また昨秋の選挙結

果、今年1月から市長が交代し、勤務先施設の職員を、新市長を支持した職員に入れ替えようとの動きがあり、今後も同僚が同じ職場で働けるよう頑張った隊員、地域で栄養不良の人が多く、栄養改善が必要と理解しても伝統的食生活を変えない地域のお母さん達に、大阪風お好み焼きの普及に努めた栄養隊員、過去にアオコが大量発生し湖の魚資源に深刻な被害があり、日常の水質管理、排水処理施設整備の重要性を指摘する環境隊員、海亀産卵地を観光資源として地域開発の目玉にしたいと頑張る隊員、日本の支援で作成された当国公立小学校の算数教科書を使用した教員の学習指導改善に取り組む隊員らから大変興味深く、お話を



お聞きしました。また、協力隊員の広範な活動に関心をもっておられる当地メディア関係者3名にもご参加頂き、隊員から取材をしてもらいました。集まった隊員の皆さん達に日本食buffetを楽しんでもらい、元文科省国費研究生(長崎大学医学部熱帯医学)で元日本研修員の同窓会長のマルティネスさんによる日本の曲のギター弾き語りをお願いしたところ、大好評でした。

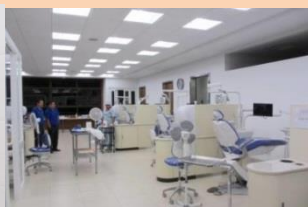


#### ◆日本のインプラント学会先生方の研修

8月6日夕、日本から18名の歯科医の方々と当地フランシス・マロキン大学(UFM)でお会



いする機会がありました。ニューヨーク大学の国際インプラント学会の短期研修修了式に出席し、ご挨拶を致しました(左写真)。UFMでの研修は今年3回目となります。日本側同プログラム・コーディネータの佐藤明寿先生のお話しでは、UFM 歯学部施設は、日本の大学の歯学部施設と



比べてもよく整っており、研修受入れに熱心であるとのことでした。旧知のアルファロ UFM 歯学部部長(左上写真)夫妻のご案内で、完成したばかりの同大学の歯学部診療棟も拝見しました(同左上)。研修後、歯科医の先生方

は、ユネスコ世界遺産のアンティグア市を視察されると伺いました。

#### ◆当国の地域警察支援(日本の技術協力)開始式

8月12日、日本の協力による当国地域警察の強化プロジェクトの開始式が内務省であり、ロムロ内務次官他当国文民警察(PMC)幹部が多数参集し、プロジェクト内容についての講演や7月に日本で地域警察の研修を受けたマジエン PMC 作戦次長による日本での研修内容についてのプレゼンテーション、同内務次官の挨拶・訓示がありました。



なお、ロムロ次官(左下写真の左端の方)は、この日本支援プロジェクト開始に当たり、過去日本が支援したサンパウロ州地域警察の実態を視察されており、同次官訓示の中で、日本政府の支援に対するモラレス当国大統領からの感謝の言葉を伝達され、当国



地域警察とサンパウロ地域警察を比較して、当国国民のニーズに寄り添う形で何を課題として強化すべきかなど見えて来たとの印象を話

しておられました。

#### ◆日本語・日本文化特別事業(本田元西フロリダ州立大学日本文化センター所長)

8月12日午後、当館会議室で、当国サン・カルロス国立大学の日本語クラスで学ぶ2年次学生と日本語講師の方々30余名を対象とした日本語・日本文化特別授業を実施しました。特別授業講師として元西フロリダ大学日本センター長の本田繁子先生にボランティア講義をお願いしました。同大学で日本語を学ぶ学生



達は、日本人講師と日本語で直接会話できる機会が日頃ないため、この授業を大変に楽しみに



にしていた様子で、金曜午後の時間帯にも拘わらず、参加予定者全員が出席し、本田特別講師と大変に楽しい時間を過ごしておりました。熱心に授業をして頂いた本田先生に対して、授業終了間際には学生参加者達から盛大なる拍手がありました。

### ◆当国の東部地域2県への出張

8月18-19日の両日、車で片道4時間ほどの当国東部サカパ県とチキムラ県に出張しました。今回出張の機会に、



国立サン・カルロス大学東部拠点キャンパス（CUNORI）主催による日本紹介行事への参加と途中にある当館草の根支援により過去改修・増設工事を実施した小学校と小児病院を視察し、



当国東部の主要都市チキムラ市の市長（右横写真の右側の方）表敬訪問、またCUNORI副学長など大学関係者と懇談をしました。



今回の日本紹介行事の舞台となったチキムラ県は首都から東方に位置し、エルサルバドルやホン

ジュラスと国境を接している。県都チキムラ市は首都から170キロあまり、標高400M程度で首都より暑く、昼間の外気温は35C程度と東京の猛暑を思い出しました。またチキムラ市までの道路沿いには果樹栽培などの農場、牧場が延々と広がっていました。19日朝から、CUNORI学生、師範学校生徒、市民及び取材のための地元プレス約150名が参集しており、当方から、日本の戦後復興、日本とグアテマラとの人物・スポーツ交流、国費留学や日本との学術交流などのスピーチを行いました。その後、当館職員からの日本紹介・対グアテマラ支援の現状について



楽しい説明もあり、同会場は盛り上がりおりました。これらプログラムの終了直後、会場外で当地TV局、ラジオ局、地元主要紙による取材も受けました。取材内容は当地の印象の他、日本の当国への支援に関連した質問をするメディア



があり、今回の日本関連行事を通じ、地元の人々に日本への関心と理解を深めてもらいたい、当国の発展のため日本が長年支援を行い、着実な成果を上げていることを話しました。また、CUNORI 学生達や市民から記念撮影の希望があり、撮影に応じました。 同会場で、後半プログラムとして、当地中学生によるマリンバ演奏、グアテマラ折紙協会のサラビアさんによる折り紙指導がありました。この行事には地元小学生 200 名程度が集まり、折り紙で家やピアノ、兜づくりに挑戦し、大いに楽しんでいました。

#### ◆FEALAC 高級事務レベル会合の当地開催

24 日午後から 26 日まで、首都グアテマラ市内ホテルで、東アジア・太平洋諸国と中南米諸国の併せて 40 か国弱の代表が参加して、FEALAC 高級事務レベル会合が開催されました。この会議は 2002 年から毎年実施されており、今回は韓国と共同議長国であるグアテマラの首都グアテマラ市での開催でした。技術革新・教育など 4 つの作業部会があり、協力と対話を中心とした会合です。日本は若手リーダー招聘プログラムやロボコン・コンテストなどでの協力に特に力を置いています。今回会合は成功裡に終わり、来年は韓国で外相会合が開催予定です。



#### ◆草の根支援（ケツアルテナンゴ県公立小学校再建） 309 校目の署名式



9 月 6 日、当大使館で公立小学校の再建に向けて日本政府から草の根支援を実施する旨の署名式があり、対象となったサンホセ小学校の校長先生（中央写真の右端の方）、同校児童代表が参加して、実施団体である当国の有力 NGO 団体（TIGO 財団）代表と署名を行いました。署名式後、当国の主要 TV 局（Ch3：左写真、Ch7、アステカ TV 等）



や新聞から当方へ取材があり、これまで 25 年間の間に全国の公立小学校の再建支援を行った学校数が 309 校にもなったこと、当国小学校算数教科書については、日本の協力により作成され、中学校についても同様協力を実施中であることなどお話ししました。

#### 国際交流基金・金井映像事業部長の来訪

9月1日、国際交流基金本部から金井映像事業部長にお越し頂きました。同部長から各国



TV局に日本のドラマ・アニメ・ドキュメント映画など放送コンテンツを無償提供し、中南米各国のTVで今後大いに放映されるよう働きかけをしていますとの話を伺いました。今回懇談をされたグアテマラ主要TV局責任者とは、しっかりとした話し合いが出来たとの報告も頂きました。当国では、地方での電力普及率とTV普及率が高く、地方でTVが唯一ともいえる娯楽となっています。日本の素晴らしい内容の子供向け番組、アニメ、ドラマなどが、出来るだけ早く、当国で放映されるよう働きかけをお手伝いしたいと思います。

### ◎環境考古学調査隊・米延鳴門教育大学教授の発表会

9月6日、当大使館会議室で、鳴門教育大学の米延教授にお越し頂き、昨年来当国で継続調査をされてきた環境考古学の調査結果について発表会を開催しました。木の年輪から

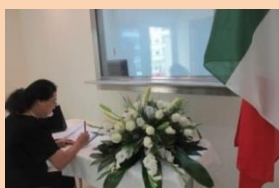


過去約1万2千年前までの気候・森林など自然環境がわかること、そして、ここ数年、グアテマラのペテン県にあるマヤ遺跡近くの湖の湖底堆積物から、既に約3千年前までの年縞（ねんこう）データの分析が進んでおり、熱帯地域の過去の気候や自然環境を知ることが出来るそうです。この年縞と、日本の秋田県や福井県の湖底堆積物からとれた年縞から知る

ことができる温帯地域の天候・自然環境と抱き合わせると、世界の気候変動や自然環境の変化をより正確に理解できるそうです。また、空からの最新技術を駆使した測量データからは、広い範囲での遺跡分布を知ることが可能となっているという、大変に興味深い講演内容でした。

### ◆イタリア中部地震被害

8月24日、イタリア中部で大地震があり、300人近い多数の方々が犠牲となりました。8



月26日、当国イタリア大使館で地震被害に対する弔問記帳があり、家内とともに記帳に参りました。イタリア大使は、日本の地震対策に学ぶところは極めて多く、この機会に日本との協力が進むことを期待したいとの発言をされていました。(了)